松本基志 県政報告

群馬県議会議員

令和４年 冬号

松本基志事務所
〒370-0861 高崎市八千代町1-17-8
TEL 027(325)1727
FAX 027(321)7523

政治は「危機管理」から

県民の生命、財産を守ります

県は昨年10月、県庁７階に常設の「危機管理センター」を設けました。災害など差し迫った危機への警戒から発生時に至るすべての局面で、情報を整理し、対応を指揮する拠点となります。警察、消防、自衛隊など関係機関の職員が集い、現場の状況や各組織の活動方針などを共有して、適格で迅速な対応を進めます。

活動を支えるのがセンター内のオペレーションルーム。広さは約５００平方メートルで、１５０人が活動できます。天板が７０インチの画面となっているタッチパネル式の指揮台は、現場から送られてくる画像データを地図に重ね合わせたり、文字を書き込んだりできます。

松本基志県議は自ら防災士の資格を取得するなど、風水害や地震などの自然災害への対応を重視しています。センターへの関心も高く、12月には吉田高広・危機管理監、糸井秀幸・危機管理課長からオペレーションルームの機能や役割などを改めて聞き取りました。

指揮台では熟知している地元、高崎市の烏川や碓氷川の合流地点などを画面に映し出し、豪雨などの有事に際して予想される被害や関係機関の具体的な対応などをシミュレーション、危機管理監や危機管理課長と意見を交換しました。

部屋の正面には大型ディスプレーが設けられ、指揮台の画面や県内の河川、道路などの情報を表示できます。吉田危機管理監は「現場とセンターの双方向でリアルタイムに状況を共有できます。対策が適宜、迅速にでき、災害対応が飛躍的に高まります」とシステムのメリットを話します。

県は従来、災害のたびに県庁１階に関係機関が集まる場を設けていました。しかし、設営に半日かかり、情報管理の難しさも指摘されていました。危機管理センターの設置は、危機管理課や災害対策本部室もある県庁の７階全体を〝常設〟の危機対応フロアと捉え、いつ発生するか分からない災害への対応を強化しました。

松本県議は「いつ、どこで起こるか分からない災害への対応は時間が勝負。情報の一元化、双方向性は県民にとって大きなメリットをもたらす」と、政治家として県民の生命、財産を重視している姿勢を強調します。

被災地支援など学ぶ

災害ＶＣの運営研修で

災害ボランティアセンター（ＶＣ）の運営者養成研修に参加しました。災害や新型コロナ感染症の拡大などでボランティアらの人材不足が懸念されています。

県と県社会福祉協議会が昨年11月15日と12月１日に市町村会館で開いた研修会で、各地の社協や市町村らの職員と災害の基礎知識や被災地支援の重要性などを学びました。

防災ヘリの安全再開願う

県議会の総務企画常任委員会の副委員長として昨年４月、前橋・防災航空センターを訪ね、防災ヘリの運行再開に向けた取り組みなどを調査しました＝写真。県防災ヘリの墜落事故（平成30年８月）を二度と起こさないよう安全管理体制の強化を目指した調査でした。

新型コロナウイルス 3回目のワクチン接種がスタート

3回目の接種が可能になる条件

国の方針により3回目の接種可能時期が早まっています。

高崎市は2月から

年齢	2月に受ける場合	3月以降に受ける場合
65歳以上	2回目の接種日から 7か月経過している	2回目の接種日から 6か月経過している
64歳以下	2回目の接種日から 8か月経過している	2回目の接種日から 7か月経過している

予約は電話かインターネットで

☎ **0120-08-5670**

(受付：月～金曜日　午前9時～午後6時)

予約専用ホームページ▶　予約の手順を動画で▶

接種券は２回目の接種日から６ヶ月後を目安に発送されます。希望者は接種券に同封されている通知を確認して予約してください。3回目も、医療機関で行う個別接種と、市内８カ所で行う集団接種を実施します。

満18歳以上 全県民対象 県営県央ワクチン接種センター

対象 2回目の接種から6ヶ月経過した方 かつ 18歳以上で接種券が手元にある方

2月11日(金)から県営県央ワクチン接種センターの受入対象者を満18歳以上の全県民に対する追加接種を「6か月間隔」で受け付けます。

●会場 Gメッセ群馬　●ワクチンの種別 モデルナワクチン

LINEでのご予約

「群馬県デジタル窓口」の「新型コロナワクチン接種予約」から

お電話でのご予約

☎ **0570-001-720**

ぐんま県営ワクチン接種センター
(受付：午前9時～午後8時30分)

北朝鮮／拉致問題
高崎で被害者救出訴える！
解決に向け啓発活動も積極的に

自民党県連で1月28日、北朝鮮による拉致で引き裂かれた家族の運命を描く映画「めぐみへの誓い」を上映しました。拉致問題は未解決のまま、被害者家族は齢を重ね、再会への持ち時間に余裕はありません。「被害者家族を思えば、問題を風化させるわけにはいきません」。松本基志県議は問題解決に向け、活動しています。

県庁1階の県民ホールで12月10日から16日まで、県と救う会・群馬らとの共催で「拉致問題パネル展」が開かれました。北朝鮮人権侵害問題啓発週間にあわせたイベントです。

被害者の一人、横田めぐみさんの肖像写真などを展示。国家による拉致の不条理と、被害者家族の悲痛が伝わります。会場を訪ねた松本県議は、救う会のメンバーらと言葉を交わし、問題の解決を誓い合いました。

また、毎月第一日曜日に高崎駅西口で行われる拉致被害者の全員救出を求める署名活動に参加、道行く人に「被害者を家族のもとへ」と訴えています。

▲県庁で開かれた「拉致問題パネル展」会場で救う会の方々と言葉を交わす松本県議

高崎駅西口で拉致被害者の救出を呼びかける▶

県議会議員　松本基志

ニンジンも交流も最高のごちそう！

上小塙町の畑で昨年11月、ニンジンを収穫しました＝写真。食の大切さを学びつつ農業に親しむＮＰＯ法人「ラッポルティ」の活動に役員として参加し、地域のみなさんや高崎経済大学の学生さんと一緒に土と親しみました。

ラッポルティはイタリア語で「繋がり」を意味しています。収穫したニンジンは学校給食用に大切に育ててきました。同法人の皆さんは「旬の野菜のおいしさを感じてほしい。人は野菜の命をもらって生きていることを伝えたい」と、意気込みを語ってくれました。

畑では食育の一環で、種をまき、育て、この日の収穫にこぎつけました。県立農林大学校で栽培技術を学ばせてもらうこともありました。

収穫したニンジンは市内の幼稚園や小中学校の給食、こども食堂に提供しました。

「いただきましたが、とてもおいしいニンジンでした」。

地域のみなさんと交流できたことも、松本県議にとって〝もうひとつ〟のごちそうだったようです。

オンラインで現地調査
前橋長瀞線拡幅工事

産経土木常任委員会は、高崎市内で行われている前橋長瀞線拡幅工事の進捗状況について、新型コロナ感染拡大防止の観点からオンラインで調査を行いました。

この工事は、綿貫町から岩鼻町の2.0㎞について、慢性的な渋滞解消と、歩行者の安全確保を目的とし、４車線化と歩道の拡幅をするものです。

現地の様子を高崎土木事務所の職員が撮影し、委員会室のディスプレイを通してリモートで解説、委員との質疑応答も行いました。松本基志県議は、綿貫町交差点から綿貫町南交差点までの優先工事区間の供用開始時期と、全体の完成年度について質疑し、優先工事区間は令和４年度の早い時期、全体の完成は令和８年度と高崎土木所長が答弁。さらに、道路は全線が完成してこそ、その効果が発揮できるので、烏川にかかる柳瀬橋とその南側の道路拡幅についても早期事業化を要望。これに対し、県土整備部長は、「できるだけ早く着手したい。」と答弁しました。

代議士と豊かな高崎語る

高崎市の発展と市民の豊かな生活には、国と県の協力は欠かせません。地元選出の衆議院議員、福田達夫代議士とは機会があるごとに、ときの課題で意見を交わしています＝写真。

新型コロナ感染症への警戒感が漂うこの２年間は、市民の生命や健康を守りつつ、いかに商都高崎の経済を回していくかがメインテーマでした。